

日本武道学会第44回大会 剣道専門分科会企画フォーラム

剣道の固有性を考える

ー海外における剣道学習者が、剣道に求めるもの（長期滞在指導の経験を通して）ー

パネリスト 塩入 宏行 （埼玉大学名誉教授）
本多 壮太郎 （福岡教育大学准教授）

司 会 田中 守 （国際武道大学教授）
太田 順康 （大阪教育大学教授）

日 時： 平成23年9月1日（木） 14:00-16:00

14:00-14:40 本多先生ご報告

14:40-15:20 塩入先生ご報告

15:20-16:00 質疑応答（ディスカッション）

場 所： D会場 国際武道大学 9号館 3F 9305 教室

趣 旨：

平成24年度から中学校新学習指導要領が完全実施されますが、新学習指導要領においては多くの教科で「我が国固有の」文化に触れさせることがとりあげられており、武道については、「その学習を通じて我が国固有の伝統と文化に、より一層触れることができるよう指導の在り方を改善する」とされています。剣道の内容を「我が国固有」の文化としてどのように学校教育のなかで取りあげることができるかについて、昨年度は礼法をテーマとし、小笠原流31世宗家・小笠原清忠先生をお招きして、武道（剣道）における「礼（法）」の意義や伝統性についてご講演をいただき、またワークショップを通じて、あらためて礼法についての理解を深めることができました。

剣道専門分科会では、本年度もひきつづきこうした剣道（武道）のもつ「我が国固有の文化」としての意義について、考察を深めてゆきたいと考えています。そこで本年大会における分科会企画フォーラムでは、海外における剣道学習者（実践者）が、剣道のどのような点（伝統性、文化性など）を日本固有なもの、あるいは魅力あるものとしてとらえているのか、についての理解を深めることによって、剣道のもつ固有性をあらためて照射してみたいと思います。

パネリストとして、ヨーロッパをはじめとする海外指導の豊富なご経験があり近年ではチリを中心とした南米において指導に携わってこられた塩入宏行先生（埼玉大学名誉教授）と、英国・グロスターシャー大学における剣道授業を担当され代表チームの指導にも携わられた本多壮太郎先生（福岡教育大学准教授）をお招きし、お二方の長期滞在指導のご経験を通じて、海外における剣道学習者（実践者）が剣道に求めるもの（魅力、文化性、固有性等）についてのご報告をいただき、それをもとにしたディスカッションを通じて、理解・考察を深めてゆきたいと考えます。

なお、本企画は剣道専門分科会以外の方、及び一般の方も参加できます（無料）。